未来への伝承

第186回

霞ケ浦に臨む王
―王塚古墳・后塚古墳―

土浦入りを南に臨む手野町の台地縁辺部に、前方後円墳と前方後方墳が並び立っています。市指定史跡王塚古墳と后塚古墳です。「王」と「后」を冠する2つの古墳は、寄り添うようにして、雄大な霞ヶ浦を見下ろしています。

王塚古墳と后塚古墳は、3世紀後半から4世紀にかけての古墳時代前期と呼ばれる時期に築造されました。大和政権が誕生し、全国で前方後円墳が造り始められた時期です。后塚古墳は前方後方墳というもので、前方後円墳の丸い部分を四角形にした古墳です。関東地方では、古墳時代前期の早い段階に多く存在するのが特徴的です。

土浦市では、平成30年度から4か年にわたって、筑波大学考古学研究室と合同で、両古墳の測量調査と発掘調査を実施しました。今回はその成果を簡単に紹介します。

測量調査の結果、王塚古墳は墳丘長83mの前方後円墳、后塚古墳は墳丘長56・2mの前方後方墳であることがわかりました。王塚古墳は市内最大、霞ヶ浦周辺でも最大級の前期古墳です。

王塚古墳では、後円部墳頂から小形丸底鉢が出土しました。底には、焼成後に人為的に開けたと思われる穴があり、葬送儀礼に使われた土器と考えられます。また、古墳時代前期の後半に出土する壺形埴輪の破片も出土しました。古墳の周りにめぐらせた「周溝」と呼ばれる溝からは、鉄鏃が出土しています。

后塚古墳では、後方部墳頂から高坏や器台、壺形埴輪と思われる破片などが出土しました。出土した器台は、X字状を呈する特徴的な形態で、これは古墳時代前期の後半に位置付けられます。周溝からは底部に穴を開けた壺が出土しました。出土状況から、墳頂部から転落したものだと推測されます。両古墳から出土した土器は、器種が異なっていることから、それぞれ墳頂部で異なる葬送儀礼が行われていた様子がうかがえます。さらに、出土した土器と壺形埴輪から、両古墳は古墳時代前期後半のほぼ同時期に築造された可能性が高いことが判明しました。

王塚古墳の墳頂部では、中央に棺の埋没にともなう可能性のある落ち込みが確認されました。后塚古墳の墳頂部でも、埋葬施設にともなう可能性のある粘土混じりの墳丘盛土が確認されています。しかし、明確な埋葬施設は検出されませんでした。

現在、上高津貝塚ふるさと歴史の広場では、第26回企画展「霞ケ浦に臨む王―古墳時代前期の地域社会―」を開催しています。今回紹介した王塚古墳・后塚古墳の調査成果は、12月3日(日)まで当館特別展示室にて展示中です。この機会にぜひご覧ください。

問 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
(☎826・7111)

王塚古墳(手野町)後円部墳頂トレンチ全景

后塚古墳(手野町)後方部墳頂トレンチ全景